

問1 田沼意次の政治が終わりを迎え、彼が失脚する要因となった社会情勢について述べた文として、正しいものはどれですか。

(2020年 佐賀公立入試 類似)

1. 浅間山の噴火や冷害による「天明のききん」が発生し、一揆や打ちこわしが全国に広がった
2. ペリーが率いるアメリカの艦隊が来航し、開国を認めたことに対する反対運動が激化した
3. 飢饉の最中に大塩平八郎が大阪で乱を起こし、幕府の無策に対する批判が最高潮に達した
4. 極端な動物愛護を命じた生類憐れみの令により、武士から庶民まで多くの人々が不満を抱いた

問2 江戸時代、幕府が鎖国体制を築く中で、海外との窓口として機能した九州北西部の長崎において、オランダとともに継続的に貿易を行った主な相手国はどこですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 中国（清）
2. イギリス
3. スペイン
4. ポルトガル

問3 18世紀後半にイギリスで始まった産業革命は、生産技術だけでなく社会のあり方を大きく変えました。この変革の中で、蒸気機関の改良と実用化がもたらした直接的な影響と、その後のイギリスの国際的な地位について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 山口公立入試 類似)

1. 蒸気機関によって工場での大規模な機械工業が可能になり、安価な工業製品を世界中に輸出したことで、イギリスは「世界の工場」と呼ばれるようになった。
2. 蒸気機関の発明により農業の機械化が飛躍的に進み、食料自給率が極限まで高まったことで、イギリスは「世界の食糧庫」と呼ばれるようになった。
3. 蒸気機関車が普及したことでロシアやフランスといった大陸諸国との陸路貿易が盛んになり、イギリスは「ヨーロッパの玄関口」としての地位を確立した。
4. 蒸気機関の導入により、伝統的な手作業による問屋制家内工業が各地で再評価され、地方の農村部が経済発展の中心地となった。

問4 江戸時代、幕府の財政再建や社会の安定を目指して行われた「幕府の三大改革」について、実施された時期が古いものから順に正しく並んでいる組み合わせを選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)

1. 享保の改革 → 寛政の改革 → 天保の改革
2. 享保の改革 → 天保の改革 → 寛政田改革
3. 寛政の改革 → 享保の改革 → 天保の改革
4. 天保の改革 → 寛政の改革 → 享保の改革

問5 江戸時代の外交において、幕府が長崎の出島でオランダとの貿易を継続させた際、その許可の前提となった条件について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2024年 徳島公立入試 類似)

1. キリスト教の布教を一切行わないこと
2. オランダ人が江戸に居住し、日本の法律に従うこと
3. 幕府が指定したキリスト教の教典のみを日本に持ち込むこと
4. 対馬を通じた朝鮮との貿易にもオランダが協力すること

問6 江戸時代の大阪が「天下の台所」として発展した背景には、地理的な条件と社会的な制度が深く関わっています。その発展の理由として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 岩手県公立入試 類似)

1. 水運を利用した取引が活発で、諸藩が蔵屋敷を通じて年貢米や特産物を換金したため。
2. 幕府が直接運営する巨大な工場が立ち並び、全国の工業製品を一手に生産したため。
3. 長崎と同様に海外貿易の唯一の窓口となり、外国の特産物が集中的に集まったため。
4. 参勤交代の途上にあるすべての領主が必ず滞在し、消費活動を行う義務があったため。

問7 江戸時代は、それ以前の戦国時代などと比較して「大きな戦乱のない世」と評されます。約260年という長期間にわたって平和が保たれた背景として、幕府が行った統治の仕組みについて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2015年 歴史公立入試 類似)

1. 武力による領土拡大を奨励し、諸大名を競わせることで勢力の均衡を保った
2. 身分制度を固定し、幕府と藩が土地と人々を厳格に支配する幕藩体制を確立した
3. 実力のある者が上の者を倒す下剋上の風潮を認め、社会の活性化を図った
4. 民衆が自ら政治を行う権利を全面的に認め、合議制による全国統治を展開した

問8 江戸時代の中期、田沼意次らが積極的に進めた経済政策に関連して、幕府が「株仲間」を公認した仕組みについて述べた文として正しいものはどれですか。 (2020年 広島公立入試 類似)

1. 商工業者に組合結成を認め、買加金などの税を徴収することで幕府の財政安定を図った。
2. 物価の上昇を抑えることを最優先し、商工業者の組合結成を厳格に禁止した。
3. 外国との貿易を独占させるために、長崎の商人だけに株仲間の結成を許可した。
4. 武士が商売に参入することを奨励するため、武士を役員とする組合を組織させた。

答え合わせ・解説

| | | |
|----|--|--|
| 問1 | 答え 1 浅間山の噴火や冷害による「天明のききん」が発生し、一揆や打ちこわしが全国に広がった | 田沼意次の時代、1780年代には浅間山の大噴火や冷害が重なり、近世最大級の惨事といわれる「天明のききん」が発生しました。これにより深刻な食糧不足に陥った農村では一揆が、都市部では打ちこわしが多発しました。こうした社会不安に加え、役人との賄賂（わいろ）が横行しているという批判が高まったことや、後ろ盾であった將軍・徳川家治が亡くなったことで、田沼は反対派によって失脚に追い込まれました。 |
| 問2 | 答え 1 中国（清） | 江戸幕府はキリスト教の禁止や貿易の統制を目的として対外関係を制限しましたが、中国（清）とオランダの2か国については、九州北西部に位置する長崎の港に限り、継続的な貿易を認めました。 |
| 問3 | 答え 1 蒸気機関によって工場での大規模な機械工業が可能になり、安価な工業製品を世界中に輸出したことで、イギリスは「世界の工場」と呼ばれるようになった。 | 18世紀後半にイギリスで始まった産業革命では、ジェームズ・ワットによる蒸気機関の改良が決定的な役割を果たしました。これにより、それまでの人力や水力に依存していた生産体制から、機械を用いた大規模な工場生産へと移行しました。イギリスは圧倒的な工業生産力を背景に、綿織物などの製品を世界市場へ供給したため、「世界の工場」としての地位を築きました。他の選択肢にある「農業中心の発展」や、島国であるイギリスが「大陸諸国と陸路で貿易」という記述は誤りです。 |
| 問4 | 答え 1 享保の改革 → 寛政の改革 → 天保の改革 | 18世紀前半に8代將軍徳川吉宗が行った享保の改革、18世紀後半に老中松平定信が行った寛政の改革、19世紀前半に老中水野忠邦が行った天保の改革という順序で展開しました。いずれも財政を立て直しや農村の復興を目的としましたが、時代が下るにつれて、飢饉や外国船の来航といった内憂外患の状況が深刻化していく中で実施されました。 |
| 問5 | 答え 1 キリスト教の布教を一切行わないこと | 幕府がオランダに対して貿易を許可した決定的な要因は、宗教（キリスト教）と商業の分離です。幕府は1630年代に段階的に鎖国体制を築く中で、日本国民への布教の恐れがない国を選別しました。オランダは幕府のこの方針に従い、キリスト教の布教に関わらないことを誓ったため、唯一のヨーロッパの窓口として認められました。 |
| 問6 | 答え 1 水運を利用した取引が活発で、諸藩が蔵屋敷を通じて年貢米や特産物を換金したため。 | 大阪は「水の都」と呼ばれるほど堀川が整備されており、大型船による大量輸送が可能でした。諸藩は貨幣経済の浸透に対応するため、蔵屋敷に運び込んだ年貢米などを商人を介して売却し、現金を得る必要がありました。この仕組みが大阪を全国最大の物資集散地へと成長させました。 |
| 問7 | 答え 2 身分制度を固定し、幕府と藩が土地と人々を厳格に支配する幕藩体制を確立した | 徳川家康が江戸幕府を開いて以降、幕府は「武家諸法度」によって大名を統制し、厳しい身分制度を敷くことで社会を安定させました。このように幕府と各藩が土地と民衆を二重に支配する「幕藩体制」が構築されたことで、中世のような武力による勢力争いが鎮まり、長期間にわたる平和な社会が実現しました。 |
| 問8 | 答え 1 商工業者に組合結成を認め、冥加金などの税を徴収することで幕府の財政安定を図った。 | 田沼意次の時代には、商業の力を利用して幕府の財政を潤そうとする政策がとられました。商工業者が組織した「株仲間」を公認し、彼らに営業の独占権を与える一方で、その対価として税を納めさせる仕組みを整えました。これは、従来の年貢だけに頼る財政構造から脱却し、商業資本から直接的に税を吸い上げることを意図したものでした。 |